

## 大雨警報

至田有峰

それは季節通りに莊嚴に巡行する無色服の王  
虚弱で散漫な者に警戒的な死をもたらす

その晩夏の夜に訪れた集中豪雨は

旧城下町の国道を瞬く間に支配する

凹凸に満ちた車道は延々と続く海と島々

タイヤに水飛沫の翼を生やす車という鳥は

その上を通り闇の奥へ飛び去らざるを得ない

僅かに並ぶ飲食店で寛いでいた客たちは

帰宅の嫌気と団欒の喜びを感じもうしばらくの籠城と決め込む

彼らが巨大な権力者の下で富む貴族ならば

視界の狭さ故に足元しか見えないまま

小さな傘に身を隠し一人家路を急ぐあの男は

まるで自分以外に目を向ける余裕のない小市民

これは全て集中豪雨という王の命によるもの

彼のように孤独に歩み続ける者は他者や社会

そして上を気にすることなく自分だけの生活を送り続ける

彼らは雨の正体を暴くことは出来ない

何故ならその服は無色であるからだ

様々な色を持つ市民たちと比較されることなく

ただ全てを絶対的に見下ろし続ける色

故に雨の支配は永遠に続く

そして雨は正体を感じ付かれないように

次の見せしめにあの男を選ぶ